

4月18日精神保健福祉部会議事録

日時:平成26年4月18日(月)

9:30~11:40

場所:かがわ総合リハビリテーションセンター

参加機関:竜雲メンタルクリニック、森岡メンタルクリニック、いわき病院、大西病院、馬場病院、大西精神衛生研究所附属若葉、グループホームネットかがわ、障害者地域生活支援センターはっと、地域活動支援センタークリマ、高松保護観察所、香川県精神保健福祉センター、高松市保健センター、三木町健康福祉課、ライブサポートセンター 13機関(順不同)

I. 講義

テーマ:「改正精神保健福祉法について」～保護者制度廃止を中心に～

講師:香川県障害福祉課 黒川様

時間:9:30~10:30

精神保健福祉法の改正に伴い変更になった点について、香川県障害福祉課黒川氏を部会にお招きして、説明をしていただきました。

講義終了後、改正精神保健福祉法による医療保護入院の現状について、精神科病院から出席していた方を中心に意見を聞きました。

(主な意見)

- ・医療保護入院が必要と精神保健指定医が判断した場合、家族等がいれば、同意を得るために連絡をとることが想定できる。その際に、連絡がつけばよいが、連絡がつかない場合、市町村長同意もできず、対応に迷うケースも出てくるのではないのでしょうか。また、家族間で意見の相違があった場合にどのように対応したらいいのでしょうか。できるだけ意見を統一できるように支援はしますが、限界があるのではないのでしょうか。退院についても同様の問題が発生するのではないかという意見ができました。
- ・退院後生活環境相談員について、また医療保護入院者退院支援委員会やそこに關わる地域の相談支援事業所との関わりについても、運用をどうしていくかという課題は多くあるということが話し合われました。

Ⅱ. 議題

i) 平成 26 年度精神保健福祉部会の方向性

平成 26 年度の高松圏域自立支援協議会 精神保健福祉部会の活動の内容についてどのように進めていくかについて話し合いました。

① 現状の課題の整理と事例検討

これまで活動を踏まえて、精神障害者が安心して生活を続けていくために必要な地域の課題について、事例として取り上げて課題の抽出を行っていきます。

例えば、入退院を繰り返す人にどのような支援が必要なのか、退院後服薬を中断してしまい、支援が届かなくなる人に対してどういった見守りが必要なのか。

地域移行支援事業にとどまらず、地域でサービスを利用していくときの連携の持ち方、支援会議を行うなど、地域定着も視野に入れて、地域で暮らす精神障害者に対する支援をどうしていくかを考えていきます。

グループホームの利用に際して、よりスムーズに支援を展開するためにはどうすればよいのか等の課題については、グループホームプロジェクトへお伝えして、協力して取り組むことが提案されました。

次に、発達障害がある方の中には、精神障害を併発している方がいて地域生活を送る上で支障があり、引きこもりがちとなっている場合があるため、一度事例検討にて取り上げることになりました。

② 地域移行支援リーフレット・パンフレット配布の成果と今後の課題

平成 25 年度に地域移行支援を推進するために入院者用と精神科病院担当者用のリーフレットとパンフレットを作成し、部会から各精神科病院へ出向いてパンフレット設置の目的・意義等を説明しました。

前回の部会でその後の支援状況について評価するために、アンケートを作成して各精神科病院に状況調査を行ってみてはどうかということになり、今回の部会にてアンケートのたたき台が提出されました。

今回の部会では、アンケート実施にあたっては、目的、内容、対象をもう少し練った方がいいのではないかという意見が出ました。次回の部会で、各精神科病院の担当者から再度聞き取りを行い、アンケートを修正し、実施することとなりました。

③ 平成 26 年度に居宅介護事業所職員、相談支援専門員などへの研修会実施

ヘルパーの事業所や就労系、相談支援事業所からも精神障害者に対する対応の困難さがあるという話があり、かかわりについての研修を実施して欲しいという要望が強いこともあり、研修会を開催していこうということになりました。

i) 就労支援部会からの説明

就労支援部会から、1事業所15分くらいトータルで2時間程度、事業所説明の時間をいただきたいという申し出がでています。

部会の時間内で30分程度時間をとり年間に4回として説明会を受けいれていくことになりました。

以上